

## 別添 1 概算工事費算出標準書式を用いた概算算出の基本的考え方及びその運用

### 【共通事項】

#### 1 概算工事費算出標準書式の活用について

別添 2 に示す概算工事費算出標準書式（以下「標準書式」という。）により算出する。

概算工事費集計表又は工種別・部位別概算算出シートに示された科目・中科目・細目の中で該当するものに数量と単価を記入し、さらに必要な細目がある場合は、適宜追加するものとする。

#### 2 共通費の考え方

共通費は、表 1 に示す「共通仮設費」、「現場管理費」及び「一般管理費等」を合計したものを言い、建築工事と各設備工事を分割して算出する。各共通費の算出は原則として「公共建築工事共通費積算基準」を適用する。

表 1 共通費の考え方

	区分	算定式	備考
共通費	共通仮設費	直接工事費 × 共通仮設費率 + 積み上げによる共通仮設費	
	現場管理費	純工事費 × 現場管理費率	純工事費 = (直接工事費 + 共通仮設費) 離島など特殊条件の場合は別途加算
	一般管理費等	工事原価 × 一般管理費率	工事原価 = (純工事費 + 現場管理費)

注) 共通仮設費率、現場管理費率を算定する際の発生材処分費の扱いは適用しない。

### 【建築工事】

#### 1 単価に関する考え方及びその運用

##### (考え方)

- 単価は表 2 の優先順位を基本として使用するものとする。
- 単価には、材料費、運搬費、施工費等の費用を含めるものとする。

##### (運用)

- 多数の規格・仕様がある場合は、代表的な規格・仕様に整理して算出してもよい。

表 2 単価の優先順位と考え方

優先順位	単価の種類	単価の考え方
1	市場単価	受注者が物価資料等に掲載された市場単価から設定するもの。市場競争のもとに取引された施工単位当たりの単価で、材料費、労務費、機械経費、運搬費、下請経費等を含む。
2	刊行物 (市場単価を除く)	受注者が物価資料等に掲載された材工共の単価、又は材料の単価から設定するもので、概算工事費算出時の直近に掲載された単価とし、地域別の単価がある場合は当該工事場所を勘案したものとする。

3	見積	参考見積をもとに受注者が取引の実情、実勢価格等を考慮し、適宜査定を行って設定するもの。見積は可能な限り複数社から収集し、単価を設定するものとする。見積単価の設定にあたっては、一式計上する方法と、設計数量で割り戻した金額を単価とする方法がある。
4	実績	受注者が過去に行った設計の実績値をもとに設定するもの。年度、地域による価格差等を補正することが必要となるため、国土交通省の「建設工事費デフレーター」等を用いて補正を行うこととする。

## 2 数量算出に関する考え方及びその運用

### （考え方）

- 標準書式の中科目又は細目毎に示されている単位で概算数量を算出することを基本とする。

### （運用）

- 設計内容に応じて、受注者の工夫により合理的、効率的に算出する。
- 効率的な概算算出のために以下のとおり算出してもよい。
  - ・ 全体工事費に占める構成比率が低い部位・部材等については、㎡あたりの実績単価の平均値などを利用してもよい。
    - 概算数量の算出を基本とするものと、㎡あたりの実績単価を利用するなど受注者の工夫により算出することができるものの考え方を表3に示す。
  - ・ 多数の規格・仕様がある場合は、代表的な規格・仕様に整理して算出してもよい。
  - ・ 基本設計で算出した概算数量は、設計内容に大きな変更が無い場合は、実施設計段階の概算数量でそのまま活用してもよい。
  - ・ 全体工事費に対する影響が少ない部分は精緻に算出しなくてもよい。（例：コンクリート体積を算出する場合、柱と梁の取り合い部分の二重計上を無視）
  - ・ CAD、BIM、積算ソフト等の活用により算出してもよい。

表3 概算工事費算出のための数量と単価の考え方

	共通単価(市場単価、刊行物単価)によるもの	参考見積、受注者実績によるもの
数量の算出を基本とするもの	○構成比が大きく、共通単価とできるもの → 躯体(鉄筋、コンクリート、型枠)、内装、直接仮設等	○構成比が大きく、共通単価とできないもの → 杭工事、地盤改良、山留・支保工、建具、外装タイル等 ○工事費の中で占める割合は小さいが、個別性が高い項目 (数量算出が比較的容易な項目) → 外部の金属仕上げ、ブラインド、可動間仕切り、書架・物品棚等
㎡単価などで算出できるもの		○工事費の中で占める割合が小さく、一般的な庁舎に付随しているもの → 点検口、各種見切り縁、サイン、階段回り・便所回り什物他

## 【電気設備、機械設備工事】

### 1 単価に関する考え方

表 2 によるものとし、主要機器はできる限り見積を収集する（市場単価、刊行物単価のある場合を除く）。

### 2 数量算出に関する考え方

算出する数量は以下のものが考えられ、受注者が適宜設定するものとするが、可能な場合は(1)による。

- (1) 系統図や概略平面から拾い出しにより算出する資機材の数量
- (2) 類似施設の床面積当たり等の実績値により算出する資機材の数量
- (3) 床面積当たり等の実績単価を用いる場合の床面積等

## 【昇降機設備工事】

### 1 単価に関する考え方

表 2 によるものとするが、できる限り見積を収集する。

### 2 数量算出に関する考え方

設計内容に応じて合理的、効率的に数量を算出するものとする。